

資料： 能登半島地震の被災状況・復興活動の一部を紹介・・・

※ それぞれの写真→ (A) 青木賢人・(H) 林紀代美 撮影

＜被災状況や復興の様子の詳細は、「能登半島地震 現地報告」（青木・林 執筆）として、『地理』7月号（古今書院より、1200円）に掲載されますので、そちらをご参照いただけますと幸いです＞



写真1：旧富来町（現志賀町） 赤崎地区 3月26日（地震翌日）撮影（H）

能登では瓦屋根の民家が多い。今回の地震では多くの民家で瓦が落ちたりずれたりするなどの被害を受けている。ブルーシートをかぶせて応急処置をしている家が多い中、この家では地震翌日から屋根の復旧工事に取っかかっていた。



写真2：旧門前町（現輪島市） 道下地区 5月2日撮影（A）

1ヶ月経過しても撤去されていない倒壊建造物もある。この家に住んでいたおばさんは、「平日は家の若者が仕事に出ているので、片づけや仮設住宅への引っ越しができない」と言っていた。高齢化が進む地域での災害復旧の難しさを感じる。



写真3：旧門前町（現輪島市） 総持寺門前街 5月4日撮影（A）

被害が大きかった総持寺の門前商店街。一階が店舗になっている構造の建造物で倒壊や基礎の破壊が多く見られる。写真の店舗も基礎が破壊されたため全壊の判定を受けている（赤い紙が貼ってあるのが見える）。構造壁の不足が建物の被災に影響していることが解る。



写真4：輪島市中心部 わいち商店街 4月18日撮影（A）

古い建造物（道路左）では家屋が全壊している（赤い紙が貼られ、立ち入り禁止となっている）のに対し、新しい建造物（道路右）では、ほとんど被害を受けていない。今回の地震では、古い建造物に倒壊が集中し、ほとんど被害を受けていない新しい建造物と隣接している。テレビ報道などでは、倒壊・全壊した建造物が集中的に報道されるため、輪島地区も大きな被害を受けたようなイメージを持たれ、観光客が減少するなどの風評被害が発生した。



写真5：旧門前町（現輪島） 下和田地区 4月8日撮影（A）

液状化によりマンホールが90cm近く抜け上がっている。門前町の谷底平野では液状化が発生し、各地でマンホール・下水道の陥没や抜け上がりが見られた。この地点は、その中でも最も顕著に抜け上がったマンホールである。

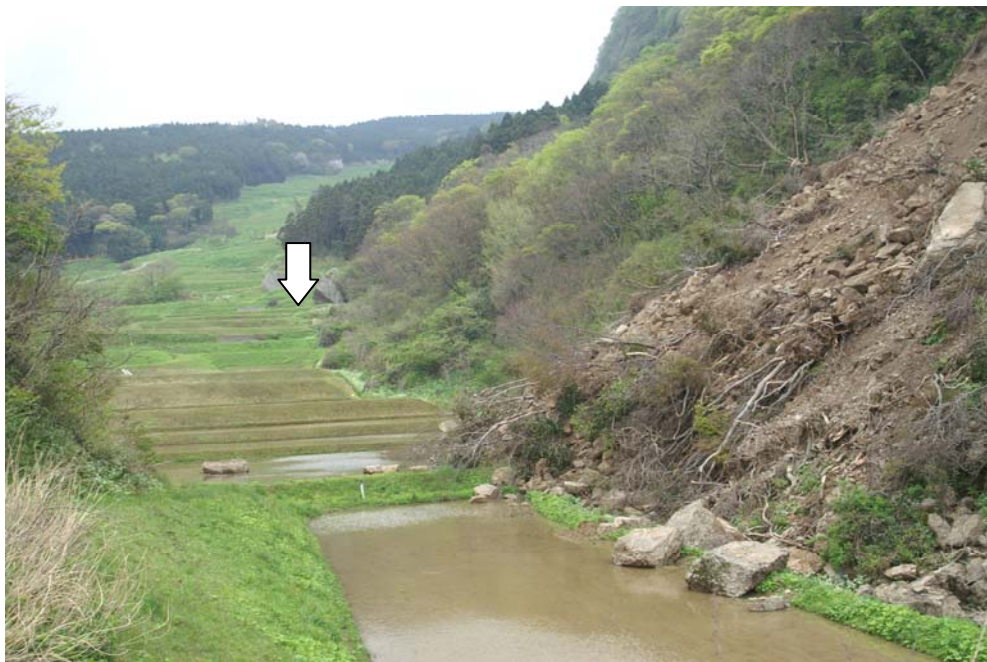


写真6：輪島市 赤崎自然休養村付近 5月2日撮影（A）

奥能登は地滑り地上や小規模な沖積低地に棚田を拓いて水田耕作を行っている地域である。能登半島地震では、こうした耕作地に小規模な地滑りによって地割れが入ったり、液状化現象で噴砂が発生するなどのほか、田んぼに水を回すための水路や溜池の被害も多く報告されている。写真の棚田では背後の崖が崩壊することによって、土塊や落石が田まで届き、作付けに影響が出ている。写真奥部の灰色の巨礫（↓）は今回の地震で崩落したものではないので、過去にも落石が発生するようなこと（地震の可能性もある）があったと考えられる。



写真7：旧門前町（現輪島市） 鹿磯漁港付近 4月19日撮影（A）

地震の発生に伴って、上盤側となる旧門前町南部一帯では地盤が隆起した。そのため、能登外浦の名産品である岩海苔の「畑」（岩礁を削り、コンクリートで平らな面を造成している）が隆起・乾出する状態になっている。今年の岩海苔の収穫に大きな影響が出ることは避けられない様相である。



写真8：旧門前町（輪島市）剣地地区 浚渫中の剣地漁港 4月19日撮影（A）

漁船が安全に通行できる水深を確保するため、地盤が隆起した分、海底の泥を浚渫している。平底船にパワーショベルを載せ、泥をすくっていた。



写真 9：輪島市 朝市通り商店街 4月18日撮影（A）

輪島市内の産業にも打撃があった。この酒造業者では正面の店舗は営業を行っているが、醸造を行っていた背後の土蔵が被災した。また、この冬に醸造した酒のタンクが揺れ、かなりの量がこぼれたり、瓶詰めするための機械が壊れたため出荷に影響があったことなどが報告されている。輪島では、醸造業や漆器産業など、土蔵を利用していたところが多かったが、これらが多くの被害を受けた。土蔵は住居ではないため解体費用が補助されないなどの問題が生じた。



写真 10：輪島市 朝市通り商店街 5月5日撮影（A）

伝統産業の輪島塗産業にも影響があった。朝市通り商店街のこの商店では、建物が全壊したため仮設店舗で営業を行っていた。店頭には「家が全壊しました」と書かれた看板が置かれ、被災直後の店内の様子を撮した写真が掲示されていた。輪島塗の商品自体に対する被災もあり、セットの食器の一部が破損するなどして割引価格で販売されている商品も多くの店舗で見かけられた。



写真 1 1 : 珠洲市 見附島 (軍艦島)

左 2002 年 8 月 1 日撮影 (A)

右 5 月 5 日撮影 (A)

能登半島は自然景観が重要な観光資源となっているが、その一部では崩壊などの影響があった。能登半島の代表的な景観の一つである見附島 (軍艦島) では、頂部の一部が崩壊し、その形状が若干変化した。見附島の他にも、外浦の巖門や関野鼻、琴ヶ浜などでも土砂崩れなどの被害が発生しており、ヤセの断崖などではゴールデンウィークでも観光客の立ち入りが禁止されていた。



写真 1 2 : 旧富来町 (志賀町) 西海久喜地区 5 月 4 日撮影 (A)

この地区は建物被害は比較的小さかった地域であるが、大量の震災ゴミが発生している。中には「震災に遭おうが遭うまいが、元々しまい込まれていたゴミだろう」というものも多く、震災のどさくさに紛れて捨てられたゴミ (家電リサイクル法対象の廃棄物も多い) であると考えられる。



写真13：旧門前町（輪島市） 道下地区 4月19日撮影（A）

今回の震災に際しても、全国各地から多くのボランティアが被災地を訪れ、被災者の援助にあたった。ボランティアセンターでボランティアの登録・配置を行い、必要な場所に必要の人員が配置されるよう手配されていた。



写真14：旧門前町（輪島市） 道下地区 5月4日撮影（A）

家屋を失った住民のために、輪島市・七尾市・穴水町・志賀町に仮設住宅が建設され、ゴールデンウィークを前に入居が始まった。



写真 1 5 : 旧門前町（輪島市） 馬場地区 琴ヶ浜海水浴場 5月4日撮影（A）

この地点は、もともと海水浴場であり観光地であったこともあり、ゴールデンウィーク中にも多くの家族連れなどが訪れていた。その多くが、背後の崩壊地を見学し、写真を撮るなどの行動を示していた。



写真 1 6 : 輪島市 名舟町 5月4日撮影（A）

輪島市沿岸の集落は、外洋に面した狭い谷底平野や、海沿いの狭い低地に成立している。こうした地域は、津波災害に対して極めて脆弱である。津波を避けるため集落の背後の高台に登るためのスロープや階段が設置されているところがある。写真左側の住居の背後にあるスロープを上ると、標高 20m を超える高台に避難することができる。